「『立山黒部』世界ブランド化推進会議」第２回ワーキンググループ　議事録

日　時：平成29年９月19日（金）
14:00～17:00
場　所：県庁本館４階大会議室

１　開会

２　挨拶（蔵堀観光・交通・地域振興局長）

３　議事
（１）各プロジェクトの検討状況等について

【山田座長】
座長の山田です。改めまして、本日もよろしくお願いいたします。
第２回のワーキンググループということで、前回に引き続き皆さんから忌憚のないご意見をいただきたいと思いますが、今回、私は実はスイスから戻って北海道、青森へ行き、青森から来たのですけれども、南下してきたとはいえ、日本の四季はいいなと改めて季節の変わり目を肌で感じております。今日も富山に着いて、ちょっと雲はありますがすてきな青空で、特に佐伯委員や森田委員も含めて、フィールドに近い方はこういう季節の移り変わりを山の上で私たち以上に肌で感じているのではないかと。これも日本人としての幸せをかみしめる瞬間ではないかと感じながら、今日はこちらにやってまいりました。
世界ブランド化ということですが、最終的に何を求めるか、どういうやり方があるのかということに関しては、もちろん富山県民、ひいては日本国民ですし、最終的には世界中の人たちから私たちはどう見られていくのかというところも含めて、非常に広く、そして深い視点で考えていただかなくてはならないプロジェクトだと思います。各プロジェクトごとにいろいろな課題がまだまだあるのですが、ぜひ皆様には建設的なご議論をいただきたいということと、それぞれの立場を代表してこちらにご参加いただいていますが、ぜひ今申し上げたとおり、広く深い視点で、前向きな、積極的なご発言をいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。
それでは早速、議事に入りますが、議事はお手元の次第に沿って進めさせていただきます。各プロジェクトの検討状況等につきましては、ここからは前回同様に各プロジェクトの事務局から説明いただきまして、その後に皆様からご意見を頂戴するという形をとりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

●06滞在プログラムの充実

【山田座長】
先ほど司会からも説明がありましたが、森田委員はこの後にご予定があって早めに退席されるということですので、「06滞在プログラムの充実」から議論させていただきたいと思います。

それでは事務局の立山黒部貫光より説明をお願いいたします。

【立山黒部貫光㈱　永崎専務取締役営業推進部長】

立山黒部貫光の永崎でございます。日頃は弊社の事業にいろいろとご協力いただきまして、厚く御礼を申し上げます。

弊社につきましては、今回の富山県のプロジェクトにおきましては11のプロジェクトを担当させていただいているわけでございます。本日につきましては、その中の四つのプロジェクトに対して説明させていただきますが、私の方から簡単に要点だけをご案内させていただきまして、社内で責任者を充てておりますので、そちらから順番に説明させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

まず「06滞在プログラムの充実」でございます。第１回のワーキンググループのときにも申し上げましたが、当社がプラットフォームを担うという形でお話をさせていただきました。関係者の皆さんから数度のヒアリングを実施し、今後につきましては、ポータルサイトの開設や関係者連絡会議、研修会の実施や先進地の視察研修等、できるところから滞在プログラムの充実を図っていきたいと思っておりますので、その要点でお聞きいただければと思います。

それから「02アルペンルートの営業時間拡大」ですが、これにおきましても、第１回のワーキンググループにおいて種々のご意見を皆様から頂戴したところでございます。今回は年間のアルペンルートの混雑状況、現状を説明し、繁忙期の早朝運行の点から何とか営業拡大を実施できないかということを考えておりますので、その点についてお聞きいただければと思います。

それから「05既存宿泊施設の高付加価値化」でございます。これについてはアンケートという話を前回は申し上げておりましたが、一部の山荘の皆様にヒアリングを実施いたしました。その結果についても説明させていただきます。まだまだ不十分な点もあろうかと思いますので、これからもできるだけ皆様の観点、ご意見をとりまとめて、アルペンルート内にあるホテル、山荘等の宿泊施設ごとに付加価値を付けていくことを推進していきたいと考えております。

それから、最後は「07-2更なる開業日の前倒し」です。この件につきましても、第１回のワーキンググループのときにたくさんのご意見を頂戴いたしました。この表題を実施するために、皆様からいろいろヒアリングした結果、「安全性の確保」が１番目、「除雪能力」の向上が２番目だったことから、この２点についてまずしっかり協議し、皆様に慎重に諮りながら前に進んでいきたいと思っているところでございます。

四つのプロジェクトについて、今から少し細かく説明をさせていただくわけですが、何分にも前回の会議から２カ月しか日にちがなかったことと、私どもアルペンルートの一番の繁忙期にかかっておりまして、現場の職員との意見交換もままならないという状況もございまして、非常にタイトでしたので、至らない点もいろいろあろうかと思いますが、その点についてご理解いただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、「06滞在プログラムの充実」から説明させていただきます。

（資料に基づき、事務局（立山黒部貫光㈱）より説明）

【山田座長】

ありがとうございました。それでは、今、事務局から説明のありました内容につきましてご

意見を伺いたいと思います。ご意見のある方がいらっしゃいましたら、ご発言をお願いいたします。

【㈱エコロの森　森田代表取締役】

今日は途中退席させていただきますので、先に。今お話があったように、山でのツアーが少ないからみんなでやりましょうというのは大変結構なことだと思うのですが、実際に当社の場合は、既に自主的に、うちは事業者なので事業者として事業をしております。採算性などを考えると非常に大変なのですが、１ツアーが6,000円や7,000円、その代わり、１人でも２人でもという状況でツアーを実施しております。単価的には、ナチュラリストの無料ツアーもあったり、立山の山ガールのツアーなどがいろいろある中で、非常に高単価ではあるのですが、それでも何とかやっているのです。

一方、なぜツアーが少ないのかということを考えてもいるのですが、その辺をもう少し突き詰めていかないと、ではツアーをやりましょうといってもなかなかできないのではないかという部分がありますので、そこも今後はバリエーションを増やす段階で検討していった方がいいかと思います。

私の意見としては、立山でのプログラムはもっと民間事業者が参入しやすくなってみんなでやっていくというのはいいと思うのですが、事業者は事業者のマーケティング、努力で実施している部分もあるので、その辺はある程度は尊重していただきたい。一方で、事業者組合的な活動がこういうふうになると思うので、そういうところで研修や危険地域の危険な場所などの情報共有、プログラム開発、どのようないいのがあるかというような組合的な活動ができれば非常に広がりが出てくると思いますので、多くの民間事業者が参入しやすいような、そしてツアーができるような体制ができれば非常に望ましいと思います。

「先進地・成功事例地域の視察」とありますが、先進地域と思われる場所は、事業者がそれぞれ参入していろいろな活動をしている一方で、それぞれのルールづくりといったこともみんなでやっている。ガイドがいないと入れない、行けない場所があったりということもあるのですが、そういうものを皆さんで話し合っていく必要もあると思います。

この間から海外の商談会などに行っていて、ヨーロッパの人といろいろお話をすることがあるのですが、やはり立山はあまり知られていないです。ただ、雪の大谷の写真だけは世界中の人が知っていて、どこだか分からないけれどもこの写真は知っているという人がヨーロッパでもどこでもいます。けれども、雪の大谷だけではなく、夏山のトレッキングやハイキングを求めていらっしゃる方も世界中にいらっしゃいます。そういう方々に、より適切なガイドができるような体制をつくっていく必要があるということを非常に感じておりますので、この辺は進めていけるとよいかと思います。

【山田座長】

ありがとうございました。それでは他の委員からご意見がございましたら。中山委員お願いします。

【環境省長野自然環境事務所　中山所長】

環境省の中山でございます。私はレンジャーとして以前、知床や小笠原で勤務したり、その

他の公園でエコツアープログラムの開発の支援を、まさに先進地でやってきたのですが、その経験を踏まえて申し上げると、一つは、今、森田さんの話の中にもありましたが、ガイド事業者が割ときちんと活躍できるような条件をそれなりに整えていかなくてはいけなくて、それができてガイド事業者さんが活発に活動しているところが先進地になっているわけです。例えば、行政が一生懸命やっても、交通事業者、今回はＴＫＫさんが頑張っていただけるようですが、そういうところが一生懸命やってもなかなかうまくいきません。ですから立山でも、ＴＫＫさんが事務局として、われわれ行政はそれを支えていくという形にしながら、ガイドの方々が仕事をやりやすいようなところで積極的にプログラムを開発していけるような状況をつくることが非常に重要だと思っています。

逆に、それらのところでもやはり、今、森田さんの話の中にもありましたが、ルールをきちんと決めたり、今、申し上げたように支援の内容を決めたりということもあって、行政側や交通事業者がやることもたくさんあると思っています。それについてもご協力はしてまいりたいと思っています。

その中で、安全対策や先進地を見ていただくと当然、技術の問題も出てくると思うのですが、そういうものを学べるようにするとか、先ほどＴＫＫさんの説明の中にもありましたが、交通関係の乗り物の運賃減免といったタイプのこともしていったらいいと思いますし、あと一つ、例えば、立山の場合は特殊な事例としては車が乗り入れられないという状況があるので、ガイド組合に所属していただいたり、委員会に所属していただいたような優良事業者であれば、車を乗り入れて、見ながらのところで止まりながらガイドツアーをするなど、今までできなかったことを試していくのもいいのかなと思っています。

そのようないろいろな形でわれわれも協力していきたいと思っておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

【山田座長】

ありがとうございました。それでは他の委員いかがでしょうか。事業者ということで、片山委員からご意見をいただけましたら。よろしくお願いいたします。

【㈱J-WET Adventures　片山マネージャー】

J-WET Adventuresの片山です。弊社も夏はずっと川に入っておりましたので、委員会に出られなくて申し訳ありませんでした。今年は、去年、おととしとは少しお客様の様子が変わったなと感じ、とても個人の方が増えていて、どんどんこういうふうに変わっていくのだなと感じています。今、お二人がおっしゃったことを後からなぞるようですが、これまでうちは20年弱やってきて、ずっと自分で開発をして、コースをつくって、そこに誰かよく分かっていない人が入ってけがをすると、弊社の責任になるということで弁護士さんを頼んだりということをずっと繰り返してきて今があります。もちろん安全対策は自分でやってきたところを今度は皆さんとシェアしていくことになるのですが、そのバランスといいますか、一事業者でできないところを皆さんで協力してやっていただきたいということを、去年からずっと申し上げています。多分、皆さんと交わるときにずれがこれから出てくると思うのですが、ある程度、新しい段階に今は入ろうとしているので、今、私が想像できるのは、うちも結構高いツアーをしているのですが、北海道などの事例で、例えば乗馬をしようとした場合、１時間で3,800円の乗馬もあれ

ば、２時間で２万円の乗馬もあって、両方に行ってみるとやはりそれは違うので、一口にそのツアーを一覧に並べることによって、安い人が大変とか、高い人が大変ということにはならないと思うので、そのうまいまとめ方を皆さんとお話ししていけたらと思っています。

【山田座長】

ありがとうございます。それでは、いかがでしょうか。他の委員の方からご意見をいただきたいと思います。もしよろしければ、とやま観光未来創造塾でガイドをお世話いただいている渡辺副座長からもご意見をいただけますか。

【渡辺副座長】

渡辺です。お世話になります。「滞在プログラムの充実」ということで、今年の実施予定の項目、それから今後の検討を進める項目、事業者の方々のご意見、環境行政からのご意見を伺いました。もちろん大変そのとおりだと思うのですが、根本的に、ここは、私たちはブランド化しようということで進めている会議だと思います。その中で考えてみますと、ブランド化がどういう形で成し遂げられるかというと、最終的にはおそらく、参加されたお客様、顧客の満足感というところに到達しなければいけないかと思います。

そういう観点で私はこれを見ているのですが、そう見ますと、今回の資料の、例えば「現状」を見ますと、「プログラムが散在している」とか、「ガイドツアーのバリエーションが少ない」とか、いわゆるマーケティングで言うプロモーションの部分の問題、これが散財しているということと、認知度を高めたいという問題と、それからもう一つがプロダクト、製品、商品、サービスそのもののバリエーション、あるいは「案内スタッフ同士の情報交換の場が欲しい」、これは情報交換を深めてより良いものをつくっていこうと、これはまさにブランド化に沿ったものだと思います。そして、29年度を見ますと、ポータルサイトの開設、連絡会議の開催、事例の視察、研修会とあります。これらはそれぞれ、そういう意味ではブランドをつくっていこうというところに沿っていると思います。

ただ、もう一つ、例えば今後の検討を進める中で必要だと思うのですが、製品そのものの品質の確保、あるいは顧客からのフィードバックをくみ上げていくという姿勢も、できれば早い段階からあった方がいいのではないかという気がいたしました。根本的には、これは満足感を高めるという方向では非常にバランスが取れた施策がそろっているのではないかというのが私の印象です。

【山田座長】

ありがとうございます。皆様よろしいでしょうか。では佐伯委員お願いします。

【立山山荘協同組合　佐伯理事長】

立山山荘協同組合の佐伯です。滞在プログラムのバリエーションを増やしたり、充実させるなど、非常に素晴らしいことだと思っておりますが、その実施時期を選ばれるときに、慎重にやっていただきたいと思っております。今現在、当然のことながら、春、夏、秋の間のことだと私は理解しているのですが、それ以外のことは考えられているのでしょうか。その辺をお聞きしたくて発言させていただきました。

【立山黒部貫光㈱　永崎専務取締役営業推進部長】
実施時期につきましては、もちろんルートの営業期間中ということになるわけですが、当然、例えば４月から６月、７月の頭ぐらいまで多量の雪が残っているときもございますし、11月に入りますと降雪の問題等々が出てまいりますので、外部のツアーについても非常に危険が出てくるということですので、それらを配慮した中でのツアーかと思っております。

【立山山荘協同組合　佐伯理事長】
確認ですが、現営業期間内の４月15日から11月30日までの間と考えてよろしいわけですね。

【立山黒部貫光㈱　永崎専務取締役営業推進部長】
はい。

【山田座長】
ありがとうございます。よろしいでしょうか。
私の方からも、今、伺っていて、最後の佐伯委員のお話からすると、今はアルペンルートの山の上だけのお話ですが、この地域全体のブランド化ですから、それぞれの市町村のことも考えていただくと、ルート上の話と、そこに関わってくるようないろいろな事業者や地域の話もありますので、今の話はちょっと分けた方がいいかと思っています。商品化という部分では、立山黒部に関連するものということで。

【立山山荘協同組合　佐伯理事長】
今の立山黒部の議題に上がっている範囲はどこなのでしょうか。４月15日から11月30日までの間に入るのではないでしょうか。

【山田座長】
時間的なことは次の検討課題になっていますので、そちらでよろしいでしょうか。

【立山山荘協同組合　佐伯理事長】
そもそも、この話の範囲はどこなのでしょうか。山田座長から出ましたが、そもそもこれはどこからどこまでの話なのでしょう。

【山田座長】
滞在プログラムをやる期限とエリアということですか。

【立山山荘協同組合　佐伯理事長】
そうです。エリアはどこを考えておられるのか。今は下の山麓から上までずっとあるとおっしゃいましたよね。私もそのとおりだと思いますので、では、その範囲はどこなのかということを明確にしていただきたいと思っていますが。

【事務局（県）】
立山黒部エリアは、アルペンルート内もありますし、黒部ということですから黒部峡谷鉄道、あるいは立山の山麓地域等々もございます。それは、先ほどアルペンルート内でありますと開業期間中ということだと思いますし、山麓地域であればそれ以外の可能性もあるかもしれませんので、そこは現時点でエリアはどこまでということではなくて、ガイドプログラムが充実できる時期、範囲でやっていくということだと思っております。

【立山山荘協同組合　佐伯理事長】
ルートは、今、かなり広い範囲を想定されているのですか。山麓というのは立山山麓、いわゆるスキー場のある場所も含めてということでしょうか。

【事務局（県）】
そこも排除せず議論していけばいいのではないかと思っています。

【立山山荘協同組合　佐伯理事長】
なるほど。宇奈月は宇奈月の温泉まで入るということですか。

【事務局（県）】
それも排除せず。

【立山山荘協同組合　佐伯理事長】
大町サイドはどの辺くらいまでなのでしょう。富山県内と考えた方がよろしいですかね。長野までは言わないということですよね。

【山田座長】
資料の「スケジュールイメージ」のところに平成29年６月から平成30年４月までの「検討・調整」というところで、いくつかこのあたりもはっきりさせていただければ、皆様のところも含めていろいろとヒアリングがあると思いますので、そういうところで決めていただくのが多分一番いいのではないかと思います。よろしいでしょうか。

【黒部市商工観光課　島田課長】
黒部もエリアということでしたので、今、ツアーデスクを設置して、当日参加できるツアーの案内ということなのですが、黒部市も事務局をしながらパノラマ展望ツアーというものをやっているのですが、前日予約すらなかなか難しい状態です。今日は片山さんも来ておられて、森田さんもおられますが、当日受付というのは基本的にできるのかどうか。うちの方は前日予約でもやりたいと思うのですが、こういったことを目指すのであればその難しさなどもぜひ研究していただければ、うちの方も一緒になって勉強したいと思いますので、よろしくお願いします。

【山田座長】

ありがとうございました。各委員からさまざまな意見が出まして、皆様の意見はほぼそのとおりだと私も思いますが、少し私が感じたところですと、全体を通して言うと、やはり人材育成が一番大事だと考えております。これはオーストリア、フランスの国立山岳登山スキー学校もそうですし、どこもそうなのですが、やはり人材を育てている地域がメッカになるのは必然的でして、これは別に観光サービスの世界だけでも、山の世界、スキーの世界だけでもなくて、料理の世界でもどこでもそうで、そういう意味では人材育成が一番大事だろうと思うところと、片山委員のお話にありましたずれが出てくるというところは、ルール化も含めてそうですが、ここは大きな視点からすると、明確なビジョンですよね。まさに世界ブランド化というところで立山黒部がどこを目指すのかしっかりしていれば、おのずと整理されていくものもあるのではないかと感じております。

あと、ツアープログラムに関しては、現時点でもいくつか、森田委員、片山委員のところでありますが、ポータルサイトも必要なのですが、他にもいろいろと情報チャネル、発信チャネルがあります。直近で私が気になったのは、民泊のAirbnbというホームページ、サイトがありますが、宿泊と体験と分かれていまして、最近は民泊以上に体験ツアープログラムをこのサイトから購入される方が多くなっています。市場の中には、宿は少々安く抑えたいけれども自分の楽しみのためにはお金をそれなりに使いたいという方が、多分、このサイトを使っていらっしゃると思うのです。実は、民泊の方は70件ちょっと登録があるのですが、体験の方は検索しても該当がゼロです。一つも登録されていないのです。そういう部分では、ポータルサイトも大事なのですが、さまざまな市場に合わせたチャネルで情報発信をしていかなくてはならないと思いますので、そのあたりもご検討いただければと思います。

時間もたっておりますので、次のプロジェクトに進みたいと思います。

●02アルペンルートの営業時間拡大

【山田座長】

それでは、番号的には前に戻るような形になりますが、「02アルペンルートの営業時間拡大」について、事務局から説明をお願いいたします。

（資料に基づき、事務局（立山黒部貫光㈱）より説明）

【山田座長】

ありがとうございました。それでは今の内容につきまして、皆様からご意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

【立山山荘協同組合　佐伯理事長】

立山山荘協同組合の佐伯です。まず、混雑が発生することの仕組みというか、それは営業時間を例えば１時間くらい早くすることによって緩和できるものなのでしょうか。その混雑に至る仕組みとか、それを緩和するためにはどうすればいいのかとか、その辺の検討が大事ではないかという気がするのです。その上での営業時間拡大ということであれば、それは理解できると思いますが、その辺をもう少し詰められた方がいいのではないかという気がします。それが

１点です。

もう一つは、営業時間を拡大して魅力ある滞在プログラムを展開するということなのですが、これは営業時間を拡大しなくても、滞在のプログラムはできるのではないですか。宿泊を伴うという形をとれば十分にできるわけなので、なぜ拡大しなければいけないのかというところが見えません。その辺をできましたらお願いいたします。

【立山黒部貫光㈱　永崎専務取締役営業推進部長】

最初の、営業時間を１時間早くしたら混雑緩和になるのかというご質問でございますが、先ほど萩原から申し上げましたのは、一つの例として、お盆の８月13日の１日で、夏の中の一番混雑しているときの例でございます。全てがこういう状態であるというわけではございませんので、特に平日になるとがらがらの状況もございますので、その辺はご理解いただきたいと思います。

それから、特に夏あたりにいらっしゃるお客様の中には、登山のお客様、観光のお客様、ハイキングのお客様、もろもろいらっしゃるわけです。それで登山のお客様、あるいは８月ぐらいになりますと富山県内の地元のお客様、あるいは近隣の石川県のお客様につきましては立山登山をしよう、雄山まで登ろうというお客様が非常に多いのです。ご家族で、お父さんが子どもさんを連れて、あるいはおじいちゃんがお孫さんを連れて一緒に登ろうと。夏になると立山登山をするのが一つの通例になっているということで、朝早く動かれるお客様も結構いらっしゃいます。そういう登山のお客様、早く動かれるお客様を先に上の方へ、室堂の方へお運びすると、その後にいらっしゃる観光客の方に余裕が出るというところから、時間を少しでも拡大することで何らかの効果は出てくるのではないかと思っておりますので、時間の拡大についてはそのような意味合いを一応持っておるところでございます。

それから、滞在プログラムの件につきましては、もちろんおっしゃるとおりですので、特にこれに関わるものではございませんが、できるだけ立山での滞留時間を長くして、長くいてもらうことによって満足感を高めていくという形でのツアーをやるということに関しては、できるだけ安全な時間帯の中でお客様に楽しんでもらう中で、事業者としてはその範囲内でしっかりお運びするということをやっていかなければいけないと考えております。

【立山山荘協同組合　佐伯理事長】

一つは、早くする方はまだ私は理解できるのですが、遅い方なのです。どうしてかと言いますと、山の世界は、やはり早出・早着なのですよね。なぜ早着かというと、体力に余裕のあるうちに着きましょうと。何らかのトラブルが起きてもまだ余裕があるようにということで、早出・早着なのです。

今、時間を延ばされますと、今でもある話なのですが、ぎりぎりまで歩いているというケースも出てきます。これはやはり危険な兆候だと思うのです。ですから、遅い方はこれ以上は無理ではないかと私は考えております。既に暗い時間になっているときもありますし、まだ暗くなくても、それを目指して歩いていること自体がかなり危険な要素になる。これはやはり事業者として責任を持って対応しなければいけないのではないかと私は考えております。

早い方ですが、これは必ずしも私は否定しませんが、本当に早くすれば混雑緩和になりますかと念を押したいです。早くしましたが全然混雑緩和になりませんでしたということであれば、

これはやる意味がないということです。ですからこそ、実験的にということなのだと思います。

もう一つは、これは４月に集中しているような気がするのです。今年の場合は特にそうなのですが、ひどい例が私のところでもありました。「まだ美女平にいるんだよ」と、夜７時か８時くらいに電話がかかってきまして、「まだ動かないんだよ、下りられないんだ」というような話もありました。これは４月なのです。４月の時期にこういう事態が発生する理由も聞かせていただきました。訪日の団体とかが入ってこられまして、それに個人が入っているということで多くなっていくのだと。ということは、これは雪の大谷だということです。雪の大谷がすごく人気があるのはいいのですが、限界ではないのかと私は言いたいのです。もう少しそれを分散する工夫をされたらどうですか。６月でもちゃんと雪はあるのです。６月は非常に空いているのですよね。そういうところへ客を誘導すれば、４月はそんなに混雑しなくて済むはずですよね。

特に、われわれはこれを見ていると、４月はスキーなどは減っております。増えているのは観光だけなのです。いわゆる通り抜けだけなのです。われわれのところは全然混んでいないのです。すごく混雑していて、そういうものに巻き込まれてしまっているという状況が現実だと思って、私は見ているのです。それをもう少しずらせないか、そういう工夫をしようとしないのかと、それが必要なのではないのかと私は見ています。

【㈱エコロの森　森田代表取締役】

４月、５月は、私もほとんど毎日のように朝早く起きて立山駅に行っているのですが、早く上げるのはとても効果があると思うのです。駅員の方は早朝出勤で非常に大変だと思うのですが、並んでいる人が相当多いので、１時間でも早く上がっていただければ、最初に来た人は多分スキーの人が多いのです。その人に先に上がっていただく。その後、４月、５月に多いのは本当にインバウンドの方ですよね。団体さん、その方は６月にやはり来ないのですよね。なぜかというと、タイの方などは４月が休みだからなのです。そういう事情もあるので、現状は４月に集中して混んでいるのだったら、少しでも早く上げてあげるというのは効果があるのではないかと思います。

分散については、６月になると雪の壁が減ってくるので行きたくないという外国人の方はいると思うのですが、それは今後の課題だと思うので、あとはプログラムも早く行ったら早く何かができるとか。私の方はスノーシューをやっているので、雪の大谷だけではなくて室堂の方にも行っていただくようなことも早く行けばできるかと思いますので、それは効果があるのではないかという意見を言って、退席させていただきます。

【立山町商工観光課　小野課長】

立山町です。営業時間を早めることについては、私も基本的には少しでも早く上がってもらった方がいいときがあると思っています。理由は二つありまして、一つはあそこのエリアは町でアイドリング禁止の条例を制定していまして、罰則規定はないですが、朝早く車で来られて、冷房をかけて車でずっと待機されているという方がいらっしゃいます。それと、ちょうど５時、６時ぐらいの時間にあの周辺では結構クマが出るということで、今年も町の職員と猟友会の方で、朝５時に、クマが出ないか、お盆の時期の前後も行っていたのですが、そうであれば、あのあたりで時間をつぶすのではなくて、早く上に上がっていただく。上は上でまたいるかもし

れませんが、そういう危険性の点でも、やはり早めに立山から上に上がってもらうことが必要かと思っています。

【山田座長】

ありがとうございました。他の委員よろしいでしょうか。

【立山山荘協同組合　佐伯理事長】

確かに、私どもは山の方は早出・早着ですから、早い方は私もそんなに反対していません。ただ、私が言いたいのは、早くすることだけが混雑緩和につながるのでしょうかということで、それを改めて問わせていただきたいのです。他の努力も必要なのではないですかというところです。

あと、終わりの方なのですが、先ほども念を押しましたが、遅い方というのはやはり危険がつきまといますので、今、言われたようにクマが出てくるかもしれませんし、早朝も出れば夕方も出ますので、その辺は十分に検討していただければと思います。以上です。

【立山黒部貫光㈱　永崎専務取締役営業推進部長】

貴重なご意見をいただきありがとうございます。まず、団体に関しまして、台湾を中心にするツアーが非常に多い時期でございまして、佐伯さんは何もしていないとおっしゃったのですが、実は一生懸命やっておりまして、今週も台湾の方へ係が行きまして、旅行会社と航空会社に４月中のツアーの設定を抑えていただいて、５月、６月に設定していただくようにお願いしておりまして、そのために私どもはいろいろなインセンティブを出したりもしまして一生懸命努力しております。

ただ、ここ２年の間は、昨年は13ｍしか雪がなかったので、早くに高い雪の壁を見ようということで４月に集中しました。今年は逆にたくさんございまして19ｍでしたので安心だと思っていたら、逆に19ｍの雪の壁を見ようということで４月に集中したということがございまして、私どもとしては大変苦労したわけでございます。

おっしゃいますとおり、山の混雑も大変ですし、それから宿泊施設も、富山県内でも宿泊できない、長野県内でもできなくて、群馬県の方へ移動したり、山梨へ行ったり、あるいは石川県へ行ったり、福井県へ行ったりという形で非常に遠い宿泊施設を利用されることから、アルペンルート内に入っていらっしゃる時間帯もだいぶ変動もありまして、その調整についても随分私どもは努力をしておりますので、一生懸命にやっているということはご理解いただければと思います。

それから、遅い方の時間帯の話ですが、いろいろ皆様からご意見をいただいているのは私どもも拝聴しておりまして、今のところはとりあえず朝の部分についてやっていってみようということで、先ほど私は安全性のことを申しましたが、佐伯千尋さんのおっしゃいますとおり、私ども事業者として安全性を考えながら、遅い方につきましては現在の形を維持しながら、早い方の部分について時期において努力してみましょうということでございますので、ご理解いただければと思います。

【山田座長】

ありがとうございます。それではよろしいでしょうか。では、このあたりで次のプロジェクトに進みたいと思います。

●05-1既存宿泊施設の高付加価値化

【山田座長】
次は「05-1既存宿泊施設の高付加価値化」について、事務局から説明をお願いいたします。

（資料に基づき、事務局（立山黒部貫光㈱）より説明）

【山田座長】
ありがとうございました。それでは、この件につきまして委員からご意見をお願いいたします。

【立山山荘協同組合　佐伯理事長】
このヒアリングのとおりで、いいまとめかと私は思っております。確かに、オープンテラスの件も、現状、うちでも小さいものを持っておりますし、みくりが池温泉さんもやっております。室堂ターミナルさんもやろうとしておられる。結構なことだと思いますが、実はうちでも若干の法的縛りがありまして、調べさせていただいたときに、あれ以上の大きさにしてはいけないということなのです。それは、保健所さんから、そちらの方の縛りがあるみたいで、食堂の外につながっている状態で何席かまではオーケーと言われました。その辺を考えていただければと思っております。スイスのように、こういうものをやりたいと、私も行ったときに、雪の上にテーブルを出して素晴らしい、うちも出していますが、そういうのはいいなと思いながらも、果たしてこれは本当に認められるのかということを皆さんで詰めていただければと思っております。
高付加価値化ということに関してですが、これは高原ホテルさんからはアンケートを取られましたか。取っていない。高原ホテルさんはすごく高付加価値の施設ではないかと私は理解しているのですが、情報によりますと、以前でもかなりレベルが高いところかと思って見ていたら、改装したときに二つの部屋を一つにして、なおさらすごく広いものにして現状やっておられるという話を聞いておりますので、高原ホテルさんの意見を私は聞きたいのです。どういう営業状態なのか、それによってどんな状態になっているのかということを私は聞いてみたいのです。
何を言いたいかと言いますと、私の提言の中にも一部触れてはいるのですが、あまり急速な高付加価値化は設備投資がいる話なのです。ここからも出てきていますが、それによって倒産を招いてしまうというケースが結構あるのです。うちの組合の中でも恥ずかしながら１、２あります。今、やっと後始末をやっているという状況です。われわれも高付加価値化の意欲を持っているのですが、あまりに先走ってしまうと倒産してしまうという非常に危険なものが待っています。特にわれわれは民間ですから、そのままつぶれて売却するだけです。
これは公の場合だったらどうなるのかというのも少し高原ホテルさんに聞いてみたい。その辺は少し情報は入っていますか。ちょっと聞いてみたいのですが。

【事務局（県）】
先ほどご説明があったように、ヒアリングはまだ行っていないということですので、現状は特段ございません。

【立山山荘協同組合　佐伯理事長】
先ほどのエリアにこだわりますが、この宿泊施設の高付加価値化はどの辺のエリアのことを指しておられるのでしょうか。改めて聞かせてください。どの辺のエリアが対象なのでしょうか。

【事務局（県）】
立山黒部だと思っております。

【立山山荘協同組合　佐伯理事長】
立山黒部ということは、宇奈月から立山山麓を含めて、長野県は除外してということですか。ということであれば、これに出ている範囲はすごく狭い答えではないですか。

【事務局（県）】
先ほどＴＫＫさんから、まずは室堂エリアの狭い範囲ですがヒアリングを行った、その結果だというご説明があったと思います。

【立山山荘協同組合　佐伯理事長】
うちらの辺を非常に大事に扱っていただいているようで感謝しなければいけないのですが、先ほどから高原ホテルさんの地区でちらちらと出てきている話というのは、高付加価値化、あるいは別の話なのかなと思ったりするのですが、建て替えについては今日はしないということらしいのですが、そちらの方の話になってしまうと思いながら、そちらの方まで話をしてもよろしいのでしょうか。
今は宿泊施設の高付加価値化ということで話しておりますが、それに付随して、宿泊施設の建て替え、新築という05-2の話に意見が入ってよいかということを確認しているわけです。
今、高原ホテルさんにこだわっているのは、皆さんご存じだと思うのですが、私の意見書の中にも一部入っております。処分というか、再建なのか分かりませんが、検討しておられる段階だと聞いております。内々に聞き及ぶには、何社かが下見に入ってきているというような話も聞きます。
あそこは建った当初、今でもそうですが、県の教職員組合の公的な施設だと理解しているのです。公的な施設だからこそ、あの場所に建っていられるのだと思います。そのように山小屋の方は理解しております。公的なものであるから、そこで建てるのを認めているのです。これを民間に処分されるということは、どういうことなのか。全然話が違ってくるのではないか。当初はそんな話ではなかったはずなのです。どこにでもよくある話ですよね。公的なものが建って民間に払い下げしてという、当初はそんな話で建ったわけではないと私は理解しているのです。ですから、もし処理されるのであれば民間はやめていただきたい。

その利用の在り方はいろいろあると思うのです。今回はそれを抜かしていますが、かなり重要な話ではないかと思って眺めております。われわれにとっては、その行く末は非常に大きな意味を持っております。特にすぐ近くにある人にとってみれば、これは大変なことになります。どうなるのか、それを検討されるときに、例えばこれは宿泊施設として残さなければいけないのかという検討も必要なのではないかと思っております。

今、弥陀ヶ原の火山防災協議会の話が進んでいますよね。その中に、もしレベル１があのすぐ近くまで施行されたら、現状では半径１㎞になっていますので室堂ターミナルは入ってしまうのですよね。室堂ターミナルまで入るということは、現状、これはアルペンルートは全部が止まってしまうのだと私は解釈しています。例えばレベル２は導入されていませんが、それに準じたものが発せられれば止まってしまうわけです。そのときに高原ホテルさんは、ちょうどその外にあって、いわゆる監視センターとしても役に立つのではないのかと。いろいろな方法があると思うのです。そういうものを含めまして、処理案を検討されるときにはうちの組合を検討の仲間に入れていただきたい。隣の方が非常に心配しております。すぐ近くの人、われわれもそうですが。以上です。

【山田座長】

ありがとうございます。次回以降の検討課題ということでよろしいですか。

どんどん時間が押しているものですから、次のプロジェクトまで進めさせていただきたいと思います。

●07-2更なる開業日の前倒し

【山田座長】

それでは「07-2更なる開業日の前倒し」について、事務局から説明をお願いいたします。

（資料に基づき、事務局（立山黒部貫光㈱）より説明）

【山田座長】

ありがとうございました。それでは委員からご意見をお願いいたします。

【立山山荘協同組合　佐伯理事長】

現状ではここまでなのでしょうか。検討中ということでしょうか。

【山田座長】

今の説明ですとこれまでの進捗状況の説明ですので、この後、引き続きということになるとは思います。

【立山山荘協同組合　佐伯理事長】

前回も説明させていただきましたが、かなり危険な要素も含んでおりますので慎重に検討し

ていただきたいということです。

もう一つは、私どもにも随分といろいろな仲間がいまして、訪ねてきてこの件についてよく言われるのです。今は安全面ということだけでお話ししていましたが、植生の関係の方々とか、ライチョウの研究の方々とかが、「早くするのは問題があるのではないの」と。検討するということになっていますが、１日早くするということ自体もかなり危険ではないのという意見もよく聞きます。その辺も、そういう方々たちの意見も聞いておられるのでしょうか。その辺を確認したいのですが。

【立山黒部貫光㈱　永崎専務取締役営業推進部長】

まだ、そちらの団体等々の方々のご意見を聞いているわけではございません。

【立山山荘協同組合　佐伯理事長】

私がこういう形で意見書を出させていただいたものですから、これをいろいろ聞かれまして、皆さん言うのです。「これだけぐらいの書き方では、私らも意見があるのですよ」と言われるのです。どこかというと、まず一つはライチョウ研究会。そこから言ってきております。冬ぐらい休ませてあげたらいいではないのかと、冬の話にいってしまいますが、冬というよりもこれは早める、同じことになるのですが、それぐらいの間は休ませた方がいいのではないのか。だからこそ、今はライチョウが健全にいるのではないのかという意見も聞きます。

それから、増田準三さんのところ、立山自然保護ネットワークというところも、植生が除雪によって傷むのではないかという話もちらちら出てきております。その辺も、この私の意見以外にも、これは検討する価値があるのではないでしょうか。われわれは長年、立山にいて、そういう方々とよく付き合っていますが、いろいろな意見を聞きます。そういう方たちの意見も大事にしてあげなければいけないのではないかと。これは冬季の営業にも絡んできますが。以上です。

【山田座長】

ありがとうございました。他の委員はよろしいでしょうか。

【環境省長野自然環境事務所　中山所長】

環境省の中山です。これは前回も申し上げたので再度ということになりますが、安全確保というところで、気象についての科学的検証をしていただくということで、それはとてもいいことだと、素晴らしいことだと思います。それから、「除雪作業員の安全確保」ということについてもいいですし、その除雪能力もいいのですが、ちょうど今、佐伯千尋さんが出したという意見書の中にも入っていますし、先般、佐々木泉さんが提出された意見書にもあるのですが、安全性の確保については除雪関係だけではないのです。当然、前倒しにしたときには仮設キャンプ場を当事務所が中心になって皆さんに協力していただきながら確保したり、そこの安全性やそこから出発してスキーに出掛ける方の安全性ということも含めて検討が必要なので、その点についてもよくご検討いただければと思います。

先ほど申し上げた佐々木泉さんの意見書については、今回は参考資料として配られておりませんが、佐々木さんは地元の方はご承知のとおり、黒部の観光旅館組合の組合長をされている

だけでなく、遭難関係の、県警の山岳警備協力隊の隊長もされていて、遭難対策のエキスパートですので、そのエキスパートの方から指摘されたことについてはきちんとよくそしゃくして、それを踏まえて検討していただいた方がいいと思いますので、よろしくお願いします。

【山田座長】

ありがとうございました。他の委員はよろしいでしょうか。

それでは、少し時間もたっておりますので、このあたりで一度休憩を挟みたいと思います。時間の関係もありますので、15時40分から再開させていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

― 休憩 ―

●12カルデラ体験学習会の周知強化等

【山田座長】

それでは、時間となりましたので再開いたします。次のプロジェクトになりますが、「12カルデラ体験学習会の周知強化等」を事務局から説明をお願いいたします。

（資料に基づき、事務局（富山県観光振興室）より説明）

【山田座長】

ありがとうございます。それでは委員からのご意見をお願いいたします。

【渡辺副座長】

渡辺です。今、カルデラ体験学習会の周知強化のご説明がありました。ご説明がありましたように、この赤字のところの倍率が１を下回っているということで、課題は周知が不足していることではないかと。それはそのとおりかもしれません。そういう意味ではプロモーションをしていくことによって改善するかもしれませんが、あまり詳しくない者がこんなことを申し上げるのは甚だご無礼を承知で申し上げるのですが、要は売れていないということはもっと別の見方もできるかなと思います。

トロッコ個人コースは3.35倍ということで、語弊があるかもしれませんが、そういう意味では非常に人気商品なわけです。それに対して0.32倍であるわけですが、こうしてみるとやはり一般的に見て、ここで反省しなければ、冷静に見なければいけないのは、商品内容なのではないか。商品という言葉でいいのか分かりませんが、学習会の内容としての魅力が、例えばトロッコ個人コースに比べたら少ないだろうことが想定されます。ですので、今回、旅行会社の担当者の方を招いて視察見学会をやるのは大変いいことだと思うのですが、その際に旅行会社の方に知っていただくことはもちろん大事なことですが、この機会を利用して、もちろんなさると思うのですが、こういったプロの旅行の方々に、商品の魅力化というか学習会の魅力アップのためのアドバイスをもらうといったところもひとつご検討いただくことも必要なのではないかと思いました。

【山田座長】
ありがとうございます。他の委員はいかがでしょうか。大坂委員、この点に関しましてはよろしいですか。

【国土交通省北陸地方整備局立山砂防事務所　大坂所長】
立山砂防事務所でございます。この施策につきましては、県さんとよく調整させていただきながらやらせていただいているところでございます。また今、先生からのご指摘で、数字が示しているのではないかということでございます。
最終目的地は同じなのですが、バスはバスで、例えば途中に有峰ダムなど、いわゆる大正時代からのプロジェクトといいますか、電力ダムですがそういうものもございますし、また、薬師岳の登山口となっている折立の周辺などの紅葉も素晴らしいわけでございます。われわれの目からでは分からないような部分が、もしかしたらプロの方が実際にモニターツアーに参加されることによって発掘されることもあり得ることだと思いますので、われわれとしては県さんのお薦めになられるこういうものに全面的に協力させていただくということかと思ってございます。
また、そういう点と、基本的に砂防工事をさせていただいているということは土砂災害の危険があるからやらせていただいているわけでございますので、今、ここでは縷々申し上げませんが、通行規制だったり、雨の規制だったり、いろいろなものがあるわけでございます。そういったリスクがあるということも前提にいろいろと総合的にご検討いただき、何はともあれまず見ていただくことが非常に大事かと思っているところでございます。以上でございます。

【山田座長】
ありがとうございます。他の委員はよろしいでしょうか。それでは次のプロジェクトに進みたいと思います。

●15携帯電話不通エリア、WiFi未整備エリアの解消

【山田座長】
次は「15携帯電話不通エリア、Wi-Fi未整備エリアの解消」について、事務局から説明をお願いいたします。

（資料に基づき、事務局（富山県情報政策課）より説明）

【山田座長】
ありがとうございました。では、この件についてもご意見をお願いいたします。

【立山山荘協同組合　佐伯理事長】
前回、８月の終わりごろですか、タスクフォースということでうちの方に来ていただきまして、いろいろと要望させていただきました。ありがとうございます。

基本的には、うちの方の近辺は、見ていたらやはり防災関連なのです。火山防災の面が強くて、ご存じだと思いますが、これからなのです。今は盛んにやっている最中というか、それを受けてこれも必要になってくるのではないか。携帯電話の不感地帯を少しでも少なくしたいと要望が出てきますので、それと並行してこういう要望が出てきているのだと理解していただければと思っております。

いわゆる火山防災に関しては、先ほどもちらっと発言しましたけれども、かなり大きなことになっております。場合によってはアルペンルートを閉鎖しなければいけないのではないかというぐらい、基本的にはそういう恐れもありますのでかなり大きな話になります。そういうものを心に留め置きながら対処していただければと思っております。以上です。

【山田座長】

ありがとうございます。それでは、よろしければ次の検討課題にいきますが、この携帯電話不通エリア、Wi-Fiの整備はスケジュールどおり検討整備を進めていただくということです。

●21登山道の整備

【山田座長】

次は「21登山道の整備」を事務局から説明をお願いいたします。

（資料に基づき、事務局（富山県自然保護課）より説明）

【山田座長】

ありがとうございました。では、この件につきまして委員からご意見をお願いいたします。

【環境省長野自然環境事務所　中山所長】

環境省の中山です。資料に書いてありますとおり、環境省の直轄事業としても、これは富山県さんに施行委任するという、手は富山県さんに動かしていただきながら予算は当省から支出するという形での事業で、順次、登山道の整備を進めさせていただいているところでございます。

また、看板の表記につきましては、昨年度の事業が繰越になって今も続けているのですが、２ページの右側に書いてあるデザインの統一基準に基づきまして、先行的に富山県さんで既にこのような形で整備を開始していただいている。これは基本的には、中部山岳国立公園全域で統一いたします。日本語と英語の２カ国語表記で、前のページにも出てきたような、利用者の安全性、利便性の向上のために、ルートごとにコース番号を設定したり、ナンバリングを行うといったことも書いてありますが、それも踏まえた形のものにしてあります。中部山岳全体でナンバリングをしていくということで、今は検討して作業を進めているところで、そういうことを踏まえながら進めてまいりたいと思っていますので、よろしくお願いします。

あとは苦言を呈させていただくと、直轄事業を一生懸命やってくださってすごく感謝しているのですが、県の部分も頑張って、これは自然保護課さんに言う話ではなく県の財政に言いたいのですが、きちんとそこも面倒を見ていただきたいと思っています。よろしくお願いします。

【山田座長】
ありがとうございます。他の委員からご意見はいかがでしょうか。よろしいですか。では、次のプロジェクトに進みたいと思います。

●25利用調整地区の導入の検討

【山田座長】
次は「25利用調整地区の導入の検討」につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

（資料に基づき、事務局（富山県自然保護課）より説明）

【山田座長】
ありがとうございました。それでは、この件につきまして委員からご意見をお願いいたします。いかがでしょうか。よろしいですか。では、次のプロジェクトに進みたいと思います。

●26環境保全経費の受益者負担の在り方の検討

【山田座長】
次は「26環境保全経費の受益者負担の在り方の検討」について、事務局から説明をお願いいたします。

（資料に基づき、事務局（富山県自然保護課）より説明）

【山田座長】
ありがとうございました。それでは、この件につきまして委員からご意見をお願いいたします。では中山委員からお願いいたします。

【環境省長野自然環境事務所　中山所長】
環境保全協力金を取っていくということについてですが、いくつか事例を紹介しますと、栂池ではロープウエーに乗ると栂池自然園に入る料金を取っているのです。ロープウエーに乗る段階で取られてしまうのですが、それはきちんと切符に書いてあるのです。しっかり入り口に新しくゲートをつくって、そこでそれを確認して入っていただく形にしているので、多分、利用者の方々はちゃんと見た段階で、乗り物に乗るお金だけではなくて、そういったものが入っているのは分かるようにして取っているので、あまりそういうトラブルは起きていないと思うのです。
それから、お客さまが来なくなるのではないかという心配があるのですが、富士山では、数年前から確か1,000円だったと思うのですが入山者から協力金を取っているのですが、そもそもそれはどちらかというとお客さんを減らすために取りはじめたという歴史があるのです。人数を確認していないので、減っていたらそれは成果があったということですが、議論の当時、早

稲田大学の栗山先生がアンケートをとったりしたところによると、1,000円の協力金ではお客が減らないという結果になっていました。おそらく5,000円とか１万円とらないと減らないと。そういうわけで、もしこのような難しさがあるというのであれば、先行事例を検討されて、どのくらいであれば厳しいのかといったことも考えられたらいいと考えています。以上です。

【山田座長】
ありがとうございます。他の委員はいかがでしょうか。

【立山黒部貫光㈱　永崎専務取締役営業推進部長】
先月のツェルマットの視察のときに、山の上のトイレは確か２フラン必要でした。トイレを利用して２フランを入れて、チケットのようなものが出てきて、それは１フラン分ですか。

【山田座長】
２フラン入れて２フラン分戻ってきます。

【立山黒部貫光㈱　永崎専務取締役営業推進部長】
２フラン入れて２フラン分ということは、それが何らかの環境を守るということに使われているというわけではないのですか。

【山田座長】
結局、それでその施設の売り上げ、利益が上がることによって、ちゃんと保全の資金メカニズムになっています。

【立山黒部貫光㈱　永崎専務取締役営業推進部長】
なるほど。そういう例もありましたので、将来的にいろいろなことを少し研究する必要があるかと。トイレを利用することに対してお客様からお金を頂戴する。ただし、それが何らかの形でお客様に還元される、それから自然保護にも還元されるということであったとしたら、理解も得られるかもしれませんし、研究をする必要があると思いました。

【山田座長】
ありがとうございます。他の委員からはよろしいでしょうか。

【立山山荘協同組合　佐伯理事長】
基本的にこういう考え方はありかとは思います。ただ、われわれの方も、登山道に関してなかなか整備の予算が付かないので、こういうものがあってお金が来ればいいとは思いますが、入山料をいただいて、あるいはいろいろなものをいただいて、どう使われるかという割り振り先でいろいろなものが出てくるのではないかと思っておりますし、その辺が難しいところかと思っております。
それに、何かの目的に特化したものとしていただくという方法もあるのかと。われわれにとっては特に登山道が非常に大きな問題になっておりまして、なかなか整備も行き届かない。特

に山奥の方はそのままになってしまっている、草刈りもできないような場所も結構あります。そのようなことも含めまして、あればいいと思いながらも、果たしてそのようにしてきちんと使われるのであろうかというような疑念もありますので、微妙なところかと思っております。

ちなみに、うちらのところによく来るネパールのヒマラヤの方たち、エベレスト街道の人たちに「登山道どうしてる？」と聞くと、あの辺は生活道路ですから、山奥に入るとまた違うのですが、「ちゃんと直しているよ」と。「じゃあ予算が付いているのか」「どこからも予算は付かない。政府からは全然予算は付かないです」「じゃあどうやってやっているんだ」と言ったら、「登山者が通り掛かりにチップを置いていってくれるのです」と。１ドルとかそういうレベルだとは思いますが、それが彼らにとってみれば大きな額なのです。ただ、それはそういう時代であればそうなのですが、これから先はどうなるのだろうと思って心配しながら眺めているところです。以上です。

【山田座長】

ありがとうございます。他の委員はよろしいですか。

【環境省長野自然環境事務所　中山所長】

今はお金の使い道、きちんと使われているかどうかが心配という話だったのですか。

【立山山荘協同組合　佐伯理事長】

必要なところに本当に回っているのだろうかと。

【環境省長野自然環境事務所　中山所長】

うちの管内は、例えば上高地などでは、トイレのチップで相当稼いでいると言ってもいいくらいです。うちの整備した公衆トイレは基本的に、上高地ではお金をとっていただくようにしているので、そのお金はその地域で管理組合をつくって、その組合の費用として会計をきちんと外に対して明示するようにしながら運営しています。当然、トイレの維持管理だけで消えてしまう場合がほとんどですが、まれに稼いでいるようなところもあるので、それを周辺の登山道の整備や美化清掃活動に使っていたり、そういった使途をきちんと決めた形で公開するようにしていますので、それほど難しい話ではないです。

【山田座長】

ありがとうございます。皆様よろしいでしょうか。

【立山町商工観光課　小野課長】

立山町です。観光協会の方で立山黒部環境保全協会の事務局を預かっているのですが、運営費はかなり事業者に負担いただいていることもあるのですけれども、県さんなり立山町も結構大きな金額を補助しているという実情がございます。ですので、受益者負担という観点で言いますと、なるべく受益者に何らかの形で負担していただいて、その財源を例えば補助金の代わりに充てるという形で、なるべく行政の負担を負担していくことも必要かと思っております。

【山田座長】
ありがとうございます。他の委員の方はよろしいでしょうか。こちらも引き続き検討が必要だと思います。
それではプロジェクトの説明は全て終わったところですが、県観光振興室から先進地視察に関する資料等についての発言があるということですので、お願いいたします。

（資料に基づき、事務局（富山県観光振興室）より説明）

【山田座長】
ありがとうございます。これで全てのプロジェクトの説明、報告事項等が終わったところですが、全体を通して何かご意見がありましたらお願いいたします。

【黒部峡谷鉄道㈱　前山取締役技術部長】
黒部峡谷鉄道の前山でございます。そのときに確認すればよかったのですが、「05宿泊施設の整備」のところで、既存宿泊施設の高付加価値化について佐伯さんもご質問されていましたが、私が聞き漏らしたかも分かりませんが、黒部も宇奈月も入るというご説明があったと思いますが、第１回推進会議の資料が皆さんのファイルの中に閉じてあると思うのですが、ここの「推進体制」のところを見ますと、「立山黒部貫光㈱をはじめ、立山黒部アルペンルート内に宿泊施設を有する各事業者において、施設やサービス面等での高付加価値化に順次取り組む」と記載されています。これは、ここでモデルケースとしてやって、宇奈月側に展開するという趣旨で先ほどは発言されたのでしょうか。確認のためにお願いします。

【事務局（県）】
これは立山黒部の世界ブランド化ということで、最終的には広くということですが、今のご指摘の資料の中ではまずはということだと思います。

【黒部峡谷鉄道㈱　前山取締役技術部長】
次の05-2の建て替えの方も同じということですね。

【事務局（県）】
同じで結構です。

【黒部峡谷鉄道㈱　前山取締役技術部長】
分かりました。

【山田座長】
ありがとうございます。それでは二階堂委員からもお願いいたします。

【関西電力㈱北陸支社　二階堂総務部長】
関西電力の二階堂でございます。本日いろいろご議論いただいているテーマの中の、立山黒

部貫光さんのアルペンルートのご検討の中身ですが、本当にこれは観光客の動線としまして、扇沢側というのでしょうか、向こう側のトロリーバスとの連携が非常に大事な問題かと思っております。実は、これにつきましては、われわれはまた違うセクションの者が管理、運用していることもございますので、こちらの者がいろいろ打ち合わせをさせていただいていますが、今後も引き続き連携をさせていただいて、いいものに仕上げていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いしたいと思います。以上です。

【山田座長】

ありがとうございます。他の委員はよろしいでしょうか。全体を通して何か、最後に一言ということでしたらお願いします。

【立山山荘協同組合　佐伯理事長】

立山山荘協同組合の佐伯です。参考資料ということで、これは先日、テレビ局を通して県の方に提出したものであります。内容に関しては、いわゆる冬季営業は、実を言えばかなり無理がありますということで読んでいただければと思います。これは営業期間の早期化に関しても同じようなことが言えますので読んでいただければと思います。かなり無理がありますと。冬山は、立山の冬はちょっとやそっとではないですよという内容になっておりますので、その点は押さえておいていただければと思います。簡単ですが以上です。

【山田座長】

ありがとうございました。他の委員はよろしいでしょうか。それでは、全体を通して渡辺副座長から一言お願いいたします。

【渡辺副座長】

今日はさまざまなプロジェクトに関しまして、ご担当される事務局、あるいは各委員の方々からの意見を伺いまして、大変勉強になりました。いろいろとなかなか難しい点があるとよく分かりました。

おそらく、私の後に専門家である山田先生がお話しされると思うのですが、前回の第１回も含めて、今回の議論を私なりにお聞きしていて、誤解を恐れずに二つ気付いたことがあるのでお話ししようと思います。

まず一つ目が、こういったメンバーの委員会ですのでやむを得ないかとも思うのですが、全体を通してちょっと利用者目線が少ないという気がしました。実は、これは山田先生のご著書の中に入ってくるので、多分、先生がおっしゃるかもしれませんが、例えばですが、今ちょうど宿泊施設のところで付加価値というお話がありました。もちろん付加価値を付けていくというのはコンセプトとしては非常に大事なことですが、付加価値というのは誰が決めるのかということを考えてみると、やはりこれは利用者が決めるのですよね。価値に関してはいろいろな見方があるのですが、価値に対して金銭的なものを払う用意がある、だからこそそこに価値がある、それに高付加価値を付けていこうというのは正しいやり方なのですが、やはり忘れてはいけないのが、利用者にとってこれがどうなのか、どういう価値なのか。利用者にとって２時間待たされるのがどういうことなのか。これは卑近な例ですけれども、全体を通じて、繰り返

しになりますが、利用者にとっての価値がもう少し議論の中に出てきていいのかなと、私自身の反省も含めてなのですが、そんな気がいたしました。多分、これは山田先生が後でもっと深く著書に基づいてお話しされると思います。

そして、もう一つですが、これはまたなかなかデリケートな話題なので、こんなところで申し上げていいのかという気がするのですが、繰り返しますがあえて誤解を恐れずに申し上げますと、今回、ここでステークになっている問題は、いわゆるそういう意味ではブランド化という、観光だけではない、けれどもいわば観光のテーマ、すなわち富山県の観光力をアップしよう、言い換えれば、もっと立山黒部を中心として、今より多くのお客様に来ていただく、先ほどの何時間待っているという話の中ではなかなか微妙な部分もありますが、これがブランド化ということだとするならば、その一方で安全性、環境という、それぞれそれ以上に重要なファクターがあって、その中でいわば選択を迫られているのですよね。

聞いていまして、私が常々、毎回思うのは、経済学で「機会費用」という言葉があると思うのですが、要は機会費用というのは、ご存じの方には釈迦に説法ですが、二つあるいは三つの選択肢を迫られているときに、例えばＡにするか、Ｂにするかといって、Ｂを選んだとします。そうするとわれわれはＢから価値が得られるのですが、一方で忘れてはいけないのはＡを選ばなかったことによる損失で、これも考えなければいけませんよという、これは一つの考え、見方です。これは正しい、正しくないは分かりませんし、それはケース・バイ・ケースだと思います。

私は教員なものですから、学生たちに説明する中ではこんなことを言います。高校３年生が大学に進学しようか、あるいは就職しようかという二つのルートがあったとします。では仮に大学に進学すると決めようとするときですが、確かに大学で４年間、あるいは院に行ったら６年間、そこで知識を付けて、その後、社会に出て仕事をするとなると、それなりに大学で４年間得たものに対する、自分に対する報酬かもしれません、報酬だけではないかもしれませんが、得られるものがあります。それをまず一つの価値として考えます。一方で考えなければいけないのは、仮に就職をした場合に得られるであろう４年間の、これはもちろんお金だけではないのですが、報酬等々、これは差っ引かなければいけないという一つの経済学の考え方、これが機会費用です。

今回、いわゆるブランド化ということを考えながら皆さんのお話を聞いていると、そこがすごく難しいなと。もちろん各委員がおっしゃるように安全性、環境というのは、そういう意味では地球より重いのかもしれません。人命というのはきっと一番思いのだと思います。そういう意味では、これは絶対なのかもしれません。

これもつまらない例なのですが、旅行のパックツアーの歴史を見ますと、ジェット機が飛びはじめたときに、飛行機は危ないから飛行機を使ったツアーはやめた方がいいのではないかという議論があったらしいのです。あまり科学的な根拠はないのですが。これを今、考えるとどうなのか。ジェット機に乗ることによるメリットの一方で、ジェット機や飛行機などでも、それは墜落していますが、そこで多くの人命が失われている、そういういずれにせよどちらを取るという判断をするときには、もう片方のマイナスというか、マイナスという言葉が正しいかどうか分かりませんが、そちらの方も考えて判断をしなさいという、これは一つの教訓です。

ですので、今回はブランド化を推進しようというのがメインテーマの会議です。その中で、繰り返しますが、ブランド化、観光客による経済効果、交流効果はさまざまあろうかと思うの

ですけれども、それと、いわゆる人命、安全性という問題、それからかけがえのない地球環境、文化もあるかもしれませんが、そういったものの判断がすごく難しいなという気がしましたが、こういう見方をする必要も一つあるのではないかなと、ちょっと問題提起を今日はさせていただこうかと思います。

生意気なことを申し上げました。事情が分かってないものの、セオリーに走り過ぎた感がなきにしもあらずですが、そんな考え方もあるということでお聞きいただければと思います。そんなわけで、今日は二つを感じました。一つは利用者目線、もう一つが機会費用ということを考えました。では、あとは座長よろしくお願いします。

【山田座長】

ありがとうございました。今回は第２回ワーキンググループということで、各委員の方からさまざまなご意見をいただきまして、ありがとうございます。ほとんど今、副座長の渡辺先生からまとめていただきましたので、私の方からは先ほどの利用者目線というところに関してだけ言いますと、確かに今後、世界ブランド化する中で、世界中の方々から、この地域、この立山黒部の価値の在り方を問われていく。私たち富山の宝物であるこのエリアとしての在り方というところは、多分、今後非常に注目されていくのだろうと思います。ただ、どういう価値を出すかというのは、まさにイメージだけ、いいところだよという価値ではなくて、要は人々に対する、これは旅行者だけではなく、特に県民に対して提供できるような価値とは何なのだろうかというところをしっかり捉えないと、多分、先ほどお話がありました機会費用というところの、選択肢を取った、取らなかった中でのさまざまな結果も見えてこないのではないかと思います。

なぜかというと、今回は世界ブランド化推進会議という中でのこのテーマの進め方なのですが、これは私も言葉に気を付けなければいけないところなのですが、最終的に何のためにやるのかとなったときに、主催が県ということを考えれば、先ほどの利用者、お客様の目線も大事なのですが、県民にとっていかにいいのか、どうなのかというところが非常に問われているところだと思います。これは私としては今後、この視点は非常に大事にしていきたいと思っています。

ただ、先ほどの守る、守らないとか、安全性も含めてですが、最終的には県民も含めて、人の存在なくしては、ここで議論をしていても逆に仕方がないのです。自然が自然のままにあるといっても、先ほど温暖化の話も少し出ましたが、今は自然が自然を破壊する、その引き金を引いたのも人なのですが、どうしていくか。しかも、この環境も含め、県民の今後の生活の在り方も含めてより良くしていくためには、私たちが関わっていることがどのような影響を与えるのかということも含めて、今まで以上に広い視点が求められているのではないかと今回は思いました。

特に経済的な価値だけを私もお話ししたくはないのですが、今回、先進地視察をしていただいて、私も同行させていただいて実感したのは、スイスだけではなく、特にイタリアの州政府の考え方もそうなのですが、人間がそこでどう生活を維持していくのかだけではなくて、まさにどうよりよい社会を構築していくのかというところが、非常に根本的な考えとしてありました。ここが私が改めて考えさせられたところです。なので、経済は本当に難しいところがあって、今回は私の新聞記事をちょうど連載中のものを出していただいているのですが、人の幸せ、

社会の豊かさはまさにお金だけでは計算できません。ただ、そうは言っても、これも前回からお話ししているとおり、何らかの資金メカニズム、もしくは経済的な価値を生まないと税収も生まれてこないし、守れるものが守れないという話もしてきました。

それだけではありません。まさに富山県が直面しているさまざま問題、特に私の場合は非常に気になるのは、もちろん人口減少に伴う社会保障の今後の維持とか、もちろん介護・医療の問題、広げ過ぎるとここで話すようなことではなくなってくるのですが、ただ、富山県民のためとなるとそのあたりも考えざるを私は得ないのではないかと思います。そういったところでこのブランド化が果たす役割を、ぜひまた持ち帰ってといいますか、ぜひそういう視点からも一度お考えいただければありがたいと思います。

とかく、皆様それぞれのお立場がありますので、いろいろな主義、主張を私も十分に理解しているつもりではあります。今はいろいろな、さまざまな分からないことが多過ぎて、まさに調査しましょう、実証実験をしていきましょうということを、今後も私たちは繰り返していかなくてはならないと思います。分からないことを分からないまま放っておくのではなく、知らないことを知らないまま捨ておくのではなく、分かる努力、知る努力を、私たちを中心に進めながら、今後の立山黒部だけの在り方だけではなくて、富山自体の在り方も、県民だからこそお考えいただけるといいのではないかと思いました。

私の方からあまりまとめにならないようなお話になってしまいましたが、意見交換はここまでとさせていただきたいと思います。

（３）その他

【山田座長】

次回のワーキンググループが12月の予定になっております。今日は各プロジェクトに対して、さまざまな委員からご意見をいただきました。事務局の方を中心に、この意見、提言を十分に参考にしていただきまして、検討を進めていただければと思います。よろしくお願いします。

では進行を事務局にお返ししたいと思います。

以上